



秋田県立支援学校天王みどり学園 研究だより NO.7
平成28年9月30日 発行

ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

..... 第1回 全校授業研究会から

中学部1年 生活単元学習 『みんなでやるぞ！中1ショップ～パート2～』

- お客さんを招いたカフェの開店を4期に分けて実施する単元。カフェのメニューも含めて、自分たちで話し合い、分担しながら開店までの準備を進めていく。悩んだり失敗したりしながら解決し、最後までやり遂げる経験を積み重ね、自信をもって生活する姿を目指す。

<小5・6・中1のワーキンググループ検討会より>

- ショップの目標として「対価」をもってくると、ショップの質の高まりや夢につながる。
- 中1の段階では、お客さんに喜んでもらうことを「対価」として捉え、まずは自信をつけることを目指したい。今後、学年が進行していく中で、「対価」を目標としていきたい。
- 中学部における「協力」する姿を明確に。(キャリア教育全体計画と関連させて考える)
- 肯定的な自己理解に結び付けるために、他者評価、自己評価の工夫を。



<ワークショップによる授業研究会より>

- 話し合い活動は、自分の想いを伝えたり相手と折り合いを付けたりするための、良い学びの場であった。話し合うために、配置図を活用したり、教師が生徒の意見をつなぐ役目をしたりして、一人一人が積極的に参加できる状況が作られていた。
- より主体的な話し合い活動にするための改善案として、話し合いのテーマをより絞る、話し合いのゴールを明確にする、出た意見を視覚化する等が考えられる。

<指導助言より> 特別支援教育課 中村 素子 指導主事

- 小学校から入学した生徒が11名中8名だが、どの生徒も自分の気持ちを表したり、仲間を励ましたりしている。一人一人の安心できる居場所になっている。
- これまで、ワーキンググループの取組を重ねているため、協議の中でも、小一中一高のつながりを話題にしつつ、中学部で大事にするところがおさえられていた。
- 指導案の中に、キャリア教育全体計画との関連は表記されているが、この単元において最終的に目指す姿は何か、より具体性が見えると分かりやすい。また、教師の配慮された手立てが非常に多かったので、指導過程にもっと表記するとよい。
- 中1ショップにおいて、生徒自身が、どんなショップにしたいか、またはどんな自分になりたいかをもつことが、自分の成長を評価し、認めていくこと、つまり自己評価につながる。

児童生徒が主体的に活動するうえで、「学習環境の整備」は重要な支援となります。本授業においても、有効な支援がいくつもありました。



単元のゴールが見える

単元計画表は、単元全体の見通しをもてるとともに、『中1ショップの開店目指してがんばるぞ』という子供たち自身の目的を共有するツールとなります。また、一つ一つの活動を終える度に「できた」マークを貼っていくことで、達成感や次への期待感にもつながります。

9/29	月	3	4	中1ショップの準備	できた
9/30	火	3	4	ショップの準備	できた
10/1	水	5	6	ショップの準備	できた
10/2	木	3	4	週理系練習	できた
10/3	金	3	4	週理系練習	できた
10/4	土	5	6	ショップの準備	できた
10/5	日	3	4	ショップの準備	できた
10/6	月	3	4	週理系練習	できた
10/7	火	3	4	週理系練習	できた
10/8	水	3	4	週理系練習	できた
10/9	木	3	4	週理系練習	できた
10/10	金	3	4	週理系練習	できた
10/11	土	3	4	週理系練習	できた
10/12	日	3	4	週理系練習	できた
10/13	月	3	4	週理系練習	できた
10/14	火	3	4	週理系練習	できた
10/15	水	3	4	週理系練習	できた
10/16	木	3	4	週理系練習	できた
10/17	金	3	4	週理系練習	できた
10/18	土	3	4	週理系練習	できた
10/19	日	3	4	週理系練習	できた
10/20	月	3	4	週理系練習	できた
10/21	火	3	4	週理系練習	できた
10/22	水	3	4	週理系練習	できた
10/23	木	3	4	週理系練習	できた
10/24	金	3	4	週理系練習	できた
10/25	土	3	4	週理系練習	できた
10/26	日	3	4	週理系練習	できた
10/27	月	3	4	週理系練習	できた



活動のゴールが見える



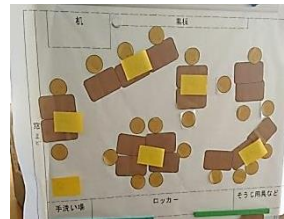
ランチョンマット作りで、1枚完成する毎に招待する人の顔写真を貼っていく。

「誰のために」「何を」「どれ位」作ればよいのか、自分の活動の見通しとゴール、頑張る目的が視覚化されています。手元には「どうやって」作るのかの手本や手順も示されています。授業場面でも、顔写真を貼る時に、「あと少しだ」という生徒の発言が聞かれ、意欲的に活動に向かおうとする姿が見られました。



活動の過程が見える

本時の話し合い活動のテーマは、中1ショップの客席配置を決めることでした。実際に机を動かしながら考える方法もありますが、全体像を考えることが難しくなります。本時で使用したボードは、決められた数の机と椅子をどのように配置すればよいか、試行錯誤しながら考えることができます。



話すことが苦手な生徒でも、コマを動かしながら話し合いに参加できる。



こんなとき、どう支援する？

話し合い活動の中で、生徒の意見が分かれました。お互いの主張があるAさんとBさん。教師は、「なぜ、そう考えたのか」の理由を尋ねましたが、それでも、自分の意見を曲げる様子が見られません。結局この時間では結論に至ることはできませんでした。多数決をとる、教師の考えを伝える、第三者の意見を聞く、等々支援の方法は様々あると思いますが、自分であれば、どのような支援をすることが生徒の学びとなるのか、とても考えさせられる場面でした。

キャリア教育全体計画の中学部の目指す姿の中には、『自分の考えを伝える』『他者を認める』『折り合いを付ける』とあります。小中高のつながりの中で、今大事にすることは何かを考えてみるのが、指導内容の連続性になっていくのではないのでしょうか。